

2016年度 通期決算説明会  
主な質疑応答

● 全社

Q：2017年度業績予想における為替の円高影響を教えてください。

A：2017年度の業績には、2016年度に対して円高となることで、売上収益で約370億円のマイナス、事業利益で約120億円のマイナス影響を織込んでいる。

Q：設備投資は、高い水準が継続しているが、この水準がいつまで継続するのか教えてください。

A：2016年度を初年度とする3カ年の「Epson 25 第1期中期経営計画」では、将来を見据えて事業基盤を整備することを優先させている。

設備投資は、プリンターやプロジェクターなどで、中長期的な需要に応えられるだけの生産能力を準備する計画であり、本中計期間の3カ年がピークだと考えている。

● プリンティングソリューションズ

Q：2016年度も大容量インクタンクモデルが拡大しているが、地域別に違いがあるのか教えてください。また、2017年の拡大をけん引する地域を教えてください。

A：特定の地域で拡大しているということではなく、いずれの地域でも順調に拡大している。

2015年度後半に経済活動が停滞した南米においても、2016年度は順調に拡大している。

この1年ほどで、競合各社が同様の商品を投入し、市場での大容量インクタンクモデルの認知度が上がったことで市場も活性化しており、そのような中で、エプソンは競争力を維持したまま継続的に拡大できた。

大容量インクタンクモデルの販売は、先進国でも拡大しているが、エマージング地域が中心であり、2017年度も、エマージング地域が拡大をけん引するものと予想している。

Q：大規模オフィスへの、高速ラインインクジェット複合機を始めとするインクジェットプリンターを拡大させるための販売体制整備の進展状況を教えてください。

A：ヨーロッパにおいては、既にオフィス向けにレーザープリンターを販売しているが、販売拠点は限られていた。現在は、販売拠点を設置する都市を拡大するなど、販路の整備を進めている。

北米では、大規模オフィスへの販路開拓は緒に就いたばかりであるが、オフィス向け商品の販売経験者や代理店との関係構築が可能な人材の獲得などを積極的に行っている。

● ウェアラブル・産業プロダクツ

Q：2017年度予想では、各事業でどのような商品が成長する前提なのか教えてください。

A：ウェアラブル機器では、これまでのお客様に加え、2016年度に再整備したオリエント時計やWristableGPSのようなセンサー技術を組み合わせた商品などの増加を予想している。

ロボティクスソリューションズでは、市場拡大しているロボットの販売拡大や、ICハンドラーの高付加価値化による販売拡大を予想している。

マイクロデバイス他は、安定した需要をベースに着実な成長を見込んでいる。

以上